



学校図書館教育

大井第二小学校

本に親しみ、自ら学ぶ子を目指して

令和7年度、恵那市学校教育の学校図書に関わる方針と重点は、「読み解く力と豊かな感性を育成する」です。このことを受けて、本校では、「本に親しみ、自ら学ぶ子」を目指して、子供たちが読書に親しめるように活動しています。本校の取組について簡単に紹介します。

主体的な学習態度の育成

図書委員会では、「図書館や本を好きになってほしい」という願いを込めて活動をしています。ロイロノートの録音機能を活用し、ビブリオバトル風おすめの本紹介を給食の時間に流すことで、全校児童の本への興味をより高めることができました。「おすめの本アルバムをつくらう」では、児童一人一人が仲間におすすしたい本を紹介しました。各クラスで1冊の本を作成し、図書館に展示しました。図書館にきた全校児童は、友達のおすすの本を知り関心を高め、借りてみようと思う広がりがありました。

学校巡回図書館司書との連携を取り、ブックトークや読書感想文指導を行いました。ブックトークのテーマは担任が学習や児童の実態に合わせて考え、図書館司書と打ち合わせをします。紹介した本は教室保管にして、いつでも自由に読むことができ、児童も教員も活用を広げることができました。



見通しをもった利用指導

各学年のフロアにミニ図書館を設置し、国語の教科書に載っている本や、各教科に関わる本を置いています。また、教科学習による意図的な図書利用を行うために、恵那市中央図書館と連携し、学習に必要な本を配送してもらったり、

図書司書に相談して、事前に使う本を集めてもらったりすることで、必要な時に必要な本が見つかるようにしています。新聞を活用した学習も行っています。4年生では、実際の新聞を見て、記事を書いている人がそれぞれ違うことや記事をうまく組み合わせていることを見つけ、班で記事を分担し、それを持ち寄って編集会議を行い、一つの新聞としてロイロノートにまとめました。



ミニ図書館

読書意欲を高める日常活動

図書館内では様々な本を紹介しています。新刊コーナー、先生のおすすの本コーナー、SDGsのコーナーなどです。特に、イベントや季節のコーナー、「ためしてラボ」のコーナーは、子供達に人気です。

三学期には、ビブリオバトルを行いました。全校児童が参加できるように工夫し、みんなで読みたいと思った本に投票することで、選ぶ楽しさを実感できる取組となりました。このような、様々な取組を通して、「本に親しみ、自ら学ぶ子」が増えていると感じています。今後は、推薦図書の精選と家庭での読書の充実を図り、令和6年度東濃地区学校図書館教育賞「総合優秀賞」として評価いただいた実践を、さらに推進します。



おすめ本コーナー



ビブリオバトル

温故知新

心に残る
遊び・授業・先輩・職員

教職の喜びを再発見～学び続けることの大切さ～



恵那市立岩邑小学校
榎屋 明広

「私は教師に向いていないのではないかな?」 教員になったばかりの頃の私は、学級経営や教科指導に自信がもてず、日々苦しさを抱えていたことを覚えています。しかし、三校目に勤務した小学校でのS先生との出会いが、私の教職に対する思いを変えるきっかけとなりました。S先生には、赴任したときから指導していただいていた。その中で一番心に残っているのは、子供たちに学習規律を身に付けるためのちょっとした技でした。それは私が授業中に手の挙げ方について、抽象的な言葉で指導していた(叱っていた)時のことでした。ちょうど廊下を通りかかったS先生が、その場面をご覧になり「ちょっと授業させてもらっていいかな?」とお手本を見せてくださったのです。S先生は、一つの発問をし、手を挙げた一人を指名され、「すばらしい!」とその子を褒め、「みんなちょっと〇〇さんを見てよ」と注目させたのです。そして、「どうして褒めたのかわかる人。」と子供たちに聞いたのです。子供たちは、口々に姿勢のよさをあげていったのです。それを聞き終えたS先生は、「みんなも同じようにできるかな?」と全体に問いかけられたのです。子供たちは、口々に「できる!」と答え、もう一度発問されると子供たちは、手をぴんぴんに伸ばして挙げていました。大きな声を出し、叱り飛ばすような指導をしていた私は、自分の指導のまずさを猛省したのを覚えています。

その小学校では、先輩方からのご指導や同僚との意見交換やフィードバックを通じて、自身の指導方法を客観的に見つめ直すことができました。そして、学級経営や教科指導に対する自信をもつことができ、教職の喜びを知ることができました。

現在、私は立場が変わり日々、抱える課題も変わりました。しかし、若い頃に同僚や先輩の先生方から学んだ経験を活かし、今後も、学び続け、私自身だけでなく先生方や子供たちのより良い未来を築いていきたいと考えています。

発行日

令和7年
7/14

恵那市教育研究所だより

NO.288

えな



作品 | 靴のスケッチ |

恵那市教育研究所 恵那市長島町正家一丁目1番地1恵那市役所 西庁舎4階
https://www.city.ena.lg.jp TEL (0573) 26-6850 FAX (0573) 26-2155

恵那市立串原中学校 3年 大島 志織さん

「温かいまなざし」の大切さ



東濃教育事務所長
浅井 誠

本年度の東濃教育事務所の方針は、「人間尊重の気風がみなぎる東濃の教育を推進する」です。この方針は平成18年度より一貫しています。

「人間尊重の気風がみなぎる教育」が推進される学校とは、どんな姿をイメージするのでしょうか? 教師の姿で言えば、「子供たちを一人の人間として尊重し、温かいまなざしで寄り添うことができる教師」ではないかと思います。岐阜県の求める教師像とも一致します。では、「温かいまなざし」で寄り添うことが必要な場面とは、どのような場面でしょうか? 私は「失敗した場面」であると思います。以前、恵那市で勤めていた時に、恵那市教育研究所だより(令和3年11月)の「温故知新」に寄稿させていただきました。タイトルは「化学変化と原子・分子 失敗」です。

自分が宝物として保管している授業のビデオテープのことを書きました。タイトルのとおり課題がとても多い「失敗」の授業です。なぜ「宝物」なのか…「温故知新」から抜粋します。

なぜ、そのようなビデオテープを宝物にしているのか…それは、この「失敗」の授業から、その後の教員人生の糧とするものを得られたからです。私が得たこと…それは「子供に軸足をおくことの大切さ」です。子供の実態に応じると言いながら、自分の敷いたレールの上に子供を乗せていこうとする自分がいました。自分の描く通りのストーリーにならないと、自分の指導力を問うのではなく、子供に責任転嫁する自分もいました。教師としてそのような構えではいけない…子供に軸足をおき、子供を絶対に大切にできる教師になろう…そんな決意をもてた「失敗」の授業…だから宝物なのです。

教育における「学び」の面では、純粋な失敗は、本当はないと見るのが大事だと思います。そこには「温かいまなざし」が必要です。そもそも「学び」の過程は非効率的で、浅い経験の繰り返しです。自分の考えで、自分が納得できるまで何度も失敗しながら取り組むから、そこに「学び」が生まれます。しかし、そこに「できる」「できない」の尺度を当ててしまうと「学び」は止

まってしまう。

私たちは、失敗しないように「正解」や「正しい解までの導き方」などを教え、その通りにすると○、できないと×という評価をしがちです。もちろん、教えなければならないこともあります。しかし、うまくいかないときにどうしたらいいかと必死に考えて、自分でヒントを見つけて新たに切り拓いていくという、人生に本当に必要な力は、それだけだとあまり育ちません。その力は失敗からどれだけ学べるかという力でもあるからです。こうした力(非認知的能力)を今は、世界が教育改革の中で意識的に育てようとしています。

うまくいかないときに、どれだけそのプロセスから学べるか…この力が生きる力の要です。

私はこの「失敗」の授業から学ぶことができました。それは自分の力ではなく、私のそんな授業を温かく厳しく指導してくださった先生方の存在、そして、何といっても自分のつたない授業を毎回楽しみに、笑顔で臨んでくれた素敵な子供たちの存在があったからこそです。

「温かいまなざし」でいっぱい学校では、子供も教師も「学び」が生まれます。

子供たちは授業の場で大小たくさんの失敗をします。しかし人間は、失敗するからこそ、どうして失敗したのか、失敗しないためにはどうすればいいか、などと考え始める動物です。失敗しなければ、深い思考を導くことはできない。うまく思考がめぐらない、成果が出ないと子供たちが思い始めたときに、それを教員がとがめないことがとても大事になる。うまくいなくてもいい、でもどうすればもっとうまくいくか、ヒントをつかもうとするような気持ちになればいいのだと見守る。残念ながら、学校は、できるだけ子供が失敗しないように、失敗しないようにと導いていく傾向がある。そのために思考の過程を教員が教員の考える方向に引っ張っていかうとする。しかしそれは、他者(教員)の思考過程に沿って思考しなさい、という無理難題を押し付けていくことになる。それは多くの子供には楽しいわけがないし、強行しても深い思考は生まれない。

「学び」とは本来、試行錯誤のものです。重要な要素は二つ。一つ目は失敗すること、失敗を許容すること。二つ目は、自分の考え方で考えること、自分のやり方でやること、自ら決めることである。

主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの実現に向けて ②

授業参観する視点 授業参観する際の8つの視点について

前号では「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の実現に向けて、令和7年度「恵那市の教育」における基本理念や付きたい3つの力、教科指導の重点等を紹介し、今年度の授業づくりの「キーワード」や教育研究所が授業参観する際の視点をお伝えしました。本号では、教育研究所が授業参観する際の8つの視点について、詳しく解説します。

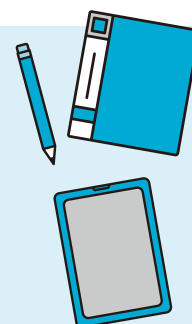


1 指導計画

01 「主体的な学び」についての正しい理解に基づき、学習活動の目的が児童生徒側にも位置付けたり、単元全体で課題解決的な構成・過程になったりしているか。

教師が指示した内容に意欲的に取り組むだけでなく、「主体的な学び」では児童生徒自身で学びの意味や目的を見出したり、計画したり、振り返ったりしながら学習を進めていくことが求められています。そのために、授業を計画する際にも「自分達で課題を見つける」「自分で解決方法を決める」「次につなげる振り返り」などの場を位置付けることを大切にしましょう。

それにより、知識の定着だけでなく、自ら課題を見つけ解決する力が養われる課題解決的な単元構成にもつながっていきます。



02 実態把握の結果を踏まえた「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実施するための具体的な手立て(いつ、何を、どのように)が計画されているか。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」を実施すること自体は目的ではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手段です。

単元の学習内容とともに、単位時間でよさを実感してほしい「個別最適な学び」や「協働的な学び」の姿を描き、それに照らした児童生徒の実態を把握する必要があります。

それを基に、教師が思い描いた学びの姿に児童生徒自らが近づいていくよう「いつ実施するか」、「どのような内容で実施するか」、「何を提示し、どのように働きかけるか」を準備することを大切にしましょう。



03 「指導と評価の一体化」を図るために、単元や本時で目指す児童生徒の姿を具体的に描くとともに、単元指導計画に「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」が位置付けられているか。

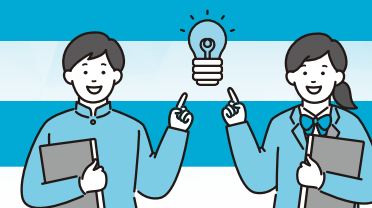
「指導と評価の一体化」とは、学習指導と学習評価を別々のものと捉えるのではなく、評価の結果を次の指導の改善に生かし、さらにその指導の成果を再び評価するという考え方です。

単元終末で目指している姿から、単位時間で目指す姿を具体的に描く中で「ここは全員が分かって(できて)いてほしい」という時間と、「ここであまりいていない児童生徒がいたとしても、次の学習以降に生かすことで単元の目標は達成させられる」という時間が見えてきます。

それに応じて授業の終末場面で見届けたり価値付けたりする内容を変えることができます。まずは、単元指導計画で「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を明確にすることから始めましょう。



2 本時の展開



01 導入において、児童生徒の実態を踏まえて本時の学習課題が提示・確認されたり、学び方について見通したりして、児童生徒が目的意識をもって学習活動に取り組めるよう工夫されているか。

児童生徒のこれまでの学習の実態を踏まえ、「これを学習したい」と興味・関心をもたせたり、「学習課題」や「学習過程」を示すことで学習のゴールや流れを見通したりできるようにすることが大切です。

また、児童生徒自身が「自分で考え、自分から取り組む」姿勢をもてるよう、前時の振り返りを問いかけたり、学び方を選ぶ場面を設定したりすることも大切にしましょう。

02 追究において、導入でもった見通しを基に、仲間との協働的な追究やICTの活用等を通して、自ら必要な情報を入手したり自分に適した学び方を選択したりするなど、学びを自己調整して学習を進められるよう工夫されているか。

自分で選択した学習を進められるように、児童生徒自らの手で情報を得られるようにICTなども使った環境を整えたり、仲間の様子を参考にしたり交流したりできる仕組みを整えることが大切です。このような学習の仕方を定着させると、教師は助言を求められた児童生徒への対応や価値付け、学習の様子把握や評価の時間を増やすことができます。



03 終末において、実態に応じて、児童生徒一人一人が身に付けた力と自分の学び方の適否を自己の学びの高まりや学びを自己調整した成否について自覚するための、自己・他者・教師評価が工夫されているか。

「分かったこと」や「できるようになったこと」、「学習方法のよさ」などを仲間や先生の評価も参考にしながら自覚できる場を位置付けたり、価値付けたりすることで、「次もこんな学習(内容・方法)をしよう」という気持ちになることが大切です。時には「まだ理解が十分ではない」「もっと知りたい」という課題を自己評価することもあります。その時に「次回は(次回までに)こんな学習をするといいよ。」とアドバイスする場も大切です。

3 ICT活用等



01 1人1台端末とクラウドの活用によって、本時育成したい資質・能力を育成するために有効な活用を行っているか。

1人1台端末とクラウドを活用することで、デジタル教科書やヒントカード、解説動画等のリソースに児童生徒自身でアクセスしたり、仲間のノートや考え、自分の学習の足跡を参照しやすくなったりすることができます。そのような活用を通して教科の本質に迫る授業にしていきたいと思います。

02 ICT等も活用しながら、自分の学習状況に応じて学習内容の「定着」や「発展」につながる家庭学習を充実させるための工夫を行っているか。

「定着」のための反復学習や「発展」的な学習まで全てを授業時間内で行うことは容易ではありません。そこで、授業中や終末の場面で、学習の状況に応じた家庭学習のポイントをアドバイスすることで、自分にとって必要な家庭学習を考え、自分から取り組む児童生徒につながっていきます。特に恵那市では「ドリルパーク」を導入していますので、うまく活用し一人一人の状況に応じた家庭学習の充実につなげていきたいと思います。



学年発達や学級の実態も踏まえながら、これらのことを意識した授業づくりを心がけ、一歩ずつ「主体的・対話的で深い学びのある授業」を目指していきましょう。

小・中学校・こども園 ALT紹介



紹介内容 ① いつ日本に来たか ② 好きな日本の食べ物 ③ 日本で興味のあること ④ 座右の銘(好きな言葉)



【担当学校】

大井小 東野小
明智小 明智中

ダンロップ アンドリュー リック DUNLOP ANDREW RICK

- 2022年5月(4年目)、オーストラリア クイーンズランド州 ② ゴーヤチャンプルー
- 日本で興味のあることは歴史です。特にその中でも戦国時代が好きで、資料が読めるように、古文や漢文といった昔の日本語を勉強しています。できれば、アイヌ語と琉球語もマスターしたいと思っています。
- 天下布武



【担当学校】

恵那北小
恵那西中

ワトリング ライアン ジェイミー WHATLING RYAN JAMIE

- 2023年4月(3年目)、イギリス ハンプシャー州 ② たこ焼き
- 日本の山を登るのが好きです。今まで登った中で一番高い山は槍ヶ岳です。目標は日本の100名山を全て登ることです。日本語を勉強して、上手に早く話せるようにになりたいです。
- 何事にも一生懸命に行う



【担当学校】

上矢作小
恵那北中 岩邑中
上矢作中

ロメロ マテオ ニコラス ROMERO MATEO NIKOLAS

- 2023年8月(3年目)、アメリカ ニューメキシコ州 ② 天ぷらと納豆とお寿司が大好きです。
- 私の日本で興味のあることは料理と音楽と弓道です。毎週弓道をやっています。料理もします。
- 他人の光になります。自分がしてほしいように、みんなに親切にしましょう。
- そして、誰かのために料理を作る準備をしておきましょう。



【担当学校】

大井第二小
三郷小 山岡小
山岡中

ミラー ダグラス ルイス MILLER DOUGLAS LOUIS

- 2023年8月(3年目)、イギリス マレー州 ② たこ焼き
- 日本は本当に良いところです。スコットランドよりも暖かい場所で住みやすいです。私は毎日新しいことを学び、新しい場所を探検することを楽しんでいます。具体的にいうと、日本文学にはとても魅力を感じます。例えば三島由紀夫と村上春樹は美しい文章があり、もっと学びたいと思いました。すしも魅力的です。夏祭りで食べる唐揚げと焼きそばも素敵です。
- たぶん大丈夫です。



【担当学校】

武並小
恵那東中

ミッチェル アリエル リアン MITCHELL ARIEL REANN

- 2024年8月(2年目)、アメリカ ケンタッキー州
- カレーうどんといちご大福が大好きです。
- 日本の海洋生物はとても面白いので、たくさん水族館に行きたいです。それと恵那市の陶芸で花瓶を作りたいです。
- 毎日たっぷり朝食をたべろ!



【担当学校】

中野方小 飯地小
長島小 岩邑小
串原小・中

コルテス アイザック ルーベン CORTEZ ISAAC RUBEN

- 2024年8月(2年目)、アメリカ カリフォルニア州
- 私はそばと梅干しが好きです。
- 私は日本の歴史と文化に興味があります。また、黒澤明の映画にも興味があります。
- 心、常に、道を離れず



【担当園】

城ヶ丘こども園 大井こども園
おさしま二葉こども園 やまびここども園
東野こども園 みさとこども園 武並こども園
中野方こども園 飯地こども園 岩村こども園
山岡こども園 明智こども園 上矢作こども園

ジョセフ セレゾ JOSEPH CEREZO

- 2002年10月(5年目)、フィリピン ② お寿司やラーメンが大好きです。生ものも、火を通した温かいものも、どちらも大好きです!
- 人々と日本の文化です。いつも感心したり、学んだり、驚かされたりすることばかりです!
- 「時は誰も待ってくれない、だから待たせないようにしなければいけない。」(時間は誰のためにも止まってくれない。だから、その時間を大切に、無駄にしないように努める、という気持ちを表しています)



【担当園】

城ヶ丘こども園 大井こども園、
おさしま二葉こども園 やまびここども園、
東野こども園 みさとこども園 武並こども園
中野方こども園 飯地こども園 岩村こども園
山岡こども園 明智こども園 上矢作こども園

シャーリーゲイ ガルシア Shirley Gay Garcia

- 2007年5月(3年目)、フィリピン ② 日本食が大好きなので、一番選ぶのは本当に難しいです。でも、エビのてんぷらやそばなら毎日でも食べられます。
- 日本は豊かな文化がとても有名で、地方にも都市にも魅力的な素晴らしい場所がたくさんあります。各県にあるお寺やお城、それに遊園地など、象徴的な場所が大切に保存されていて、そういう場所に訪れるのがとても好きです。
- 私のお気に入りの言葉は、私を支えてくれる有名な聖書の一節から来ています。「すべてのことを愛をもって行いなさい」(コリント人への第一の手紙 16章14節)

こども園の特色ある活動

健康な心と身体をめざして ～人とのかかわりを通して～

上矢作こども園

上矢作こども園

上矢作こども園は恵那市の南部に位置し、町の面積の95%が山林で矢作川の各支流が流れておりとても自然豊かな環境にあります。

今年度は4歳児5歳児のみの在籍で合同で保育を行っています。園児たちは戸外遊びや体を動かすことが大好きです。少ない人数なので常に一緒に過ごし、一緒に遊んでいます。日々の生活も阿吽の呼吸で過ぎていくことが多く、トラブルも少ないです。よって、いざ自分の思いと違っていても、もじもじとしてそこから次の一歩へ進むことがなかなかできない様子が伺えます。

園のテーマ『健康な心と身体をめざして』には、子供たちが健康な心と身体で過ごすために、必要なことの一つとして、自分の考えや思いを伝えられる事、自分の言葉で伝えられる事が大切だと考えました。そこで、園内での園児のかかわりが広がる遊びを工夫し、少人数の保育者と園児のかかわりだけでなく、地域の方や同年代の子とのかかわりや親子のつながりを大切にできる工夫をして取り組んでいきたいと考えています。

1.地域の方とのかかわり

園のすぐ近くに寿限無の里(高齢者サロン)があります。月に一度訪問し交流をします。子供たちが季節の歌を歌ったり、いつも踊っている踊りを披露したりします。

人前で披露することはちょっぴりドキドキしますが貴重な経験です。また、高齢者の方に優しく接し、思いやりの気持ちも育ちます。

地域の壮健クラブの方と一緒にさつまいもの苗付けをします。秋には一緒にお芋掘りをし、園で行う焼き芋に招待します。



地域のトマト農園さんにトマトの作り方を教えてもらい、いちご農園さんにいちご狩りに誘っていただき、「澄ヶ瀬やな」さんに招待していただき川遊びとおいしい五平餅と焼き鮎を楽しみます。地域の方に見守られ、手を貸していただきながら楽しい経験をさせていただいております。

その中で、挨拶をしたり、人前でお話をしたりする経験を積んでいきたいと思っています。



2.家庭との連携



人とのかかわりの基である家庭で、じっくり子供とかかわってほしいという思いから、年に2回、『ふれあいウィーク』として、日頃は週に1回だった絵本の貸し出しを毎日行い、読み聞かせをしてもらいました。その後の感想では改めて親子の時間がつくれていなかったことに気付かれたことや絵本の読み聞かせの大切さを感じていただけたことなどがありました。

それ以降毎日絵本の貸し出しを続けています。2回目のふれあいウィークには家庭でできるふれあい遊びや親子で一緒にできることを意識してもらえる取組を行いました。

地域の方とのかかわりを大切にし、更に色々な人と出会う機会をつくったりかかわりが広がる活動を取り入れたいしながら、保育を進めていきたいと思っています。

